

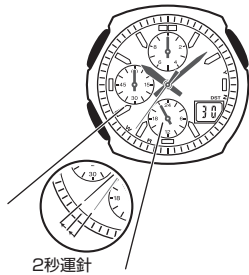
お使いになる前に

■十分に光を当ててください

本機は、光で発電した電気を充電しながら使うようになっております。保管期間により電池容量が減っている場合がありますので、お使いいただく前に十分に充電してください。（詳しくは「ソーラー充電について」をご覧ください）

●充電切れ予告

二次電池の容量が少なくなると、秒針が2秒運針を行ない、液晶表示に「LO」と表示して充電不足をお知らせします。※詳しくは「ソーラー充電について」の「充電切れ予告」をご覧ください。



■パワーセービング機能について

パワーセービング機能とは、暗いところに本機を放置すると自動的に針の動きを停止してスリープ状態にし、節電する機能です。文字板に光をあてるかボタン操作をすることでスリープ状態は解除されます。

- ※針は停止していますが、時計内部では時を刻み続けています。
- ※時計が袖などで隠れている場合でも、表示が停止することがあります。
- ※ストップウォッチモード使用中は、スリープ状態にはなりません。

〈参考〉スリープ状態になるには

●スリープレベル1

- ストップウォッチモード以外のモードで、午後10時～午前6時の間、暗いところで本機を約1時間放置します。
- 秒針が12時位置で停止します。
 - 時針、時針（24時間制）、分針は運針を継続します。
 - 液晶表示は消えます。
 - 自動受信は行ないます。
 - アラームの報音は行ないます。
 - ライト点灯は行ないません。

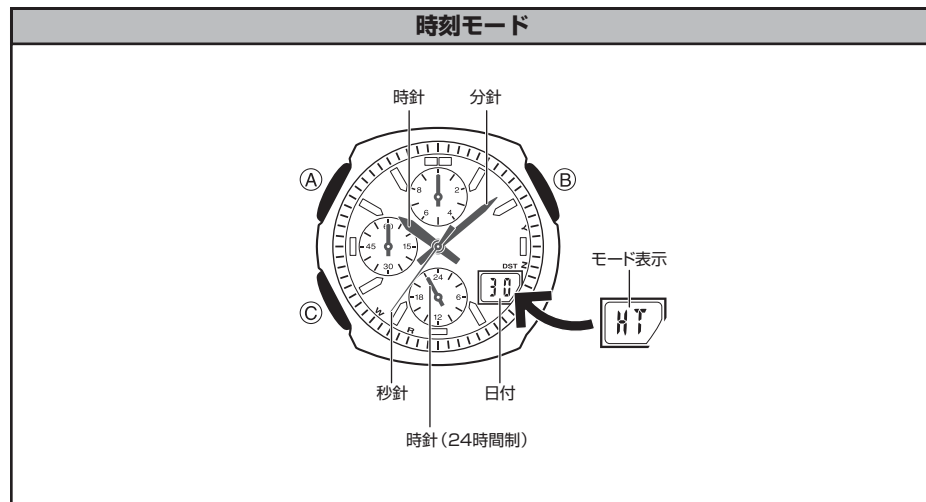
●スリープレベル2

- スリープレベル1のまま暗いところで6～7日間経過します。
- 時針、時針（24時間制）、分針は12時位置で停止します。
 - 自動受信は行ないません。
 - アラームの報音は行ないません。
 - ライト点灯は行ないません。

操作のしくみと表示の見方

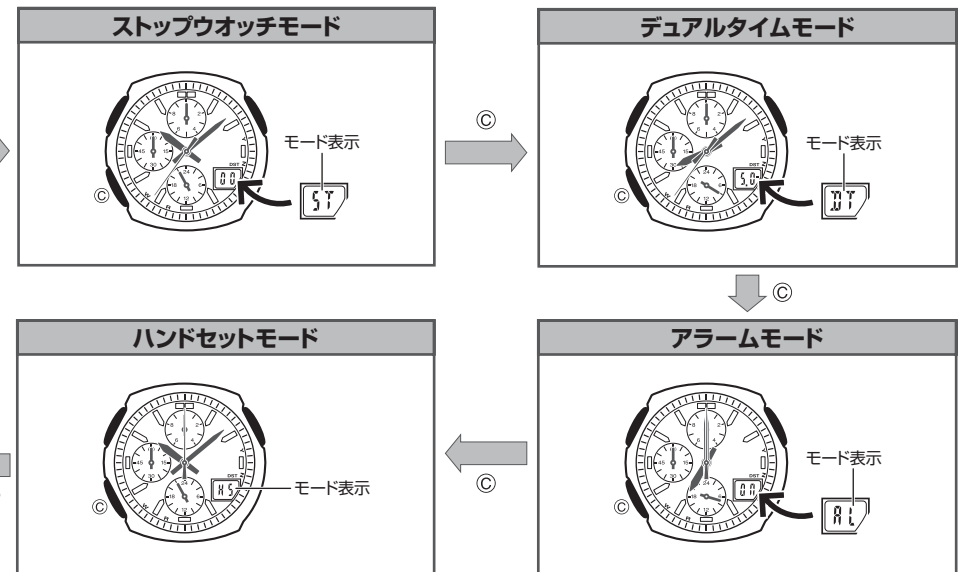
※機種により形状や文字板の印刷内容が異なります。

- ストップウォッチモード以外のモードへの切替えは◎ボタンで行ないます。◎ボタンを押すごとに、下図のようにモードが切り替わります。



※時刻モード、デュアルタイムモード、アラームモードでは、モード切替え後、約1秒経ってから針が動き出して、そのモードの時刻を指し示します。針が動いている間は、ボタンを押しても機能が働きません。

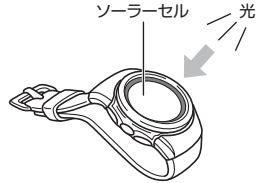
※アラームモード、ハンドセットモードで2～3分間何も操作を行なわないと、自動的に時刻モードに戻ります。



ソーラー充電について

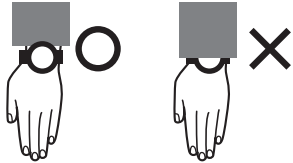
本機は、光で発電した電気を充電しながら使うようになっております。
安定した状態でお使いいただくためには、本機のソーラーセルに光が当たるようにしてお使いください。

●腕から外したときは文字板（ソーラーセル）を明るい方に向けて置くなどして、充電を心掛けてください。



蛍光灯下や窓際などの光が当たる所に置いてください。

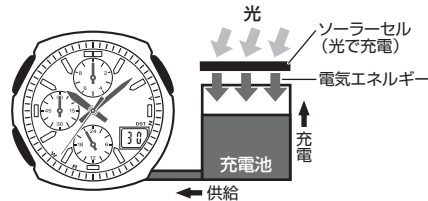
●腕に付けているときはなるべく衣類の袖が文字板（ソーラーセル）にかからないように使用してください。



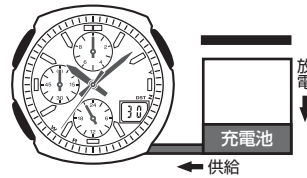
一部でも袖に隠れていると、充電効率が著しく低下します。

●光が当たっているときと当たらないとき

〈光が当たっているとき〉



〈光が当たっていないとき〉



時計は光が当たらないときでも常に動いていますので、このままでは充電電池の容量が減って機能が使えなくなります。

●リカバー状態について

アラームや電波受信などを短時間に連続して使用し、電池に大きな負担がかかった場合、運針を停止し、一時的に以下の操作ができなくなります。

- ストップウォッチ計測
- アラームの報音
- 電波受信
- ライト点灯

時間がたてば電池電圧が復帰し、使用できるようになります。

●充電切れ予告

二次電池の容量が少なくなると、秒針が2秒運針を行ない、液晶表示に「LO」と表示して充電不足をお知らせします。
※時計機能停止状態になっても再度充電を行なうと使用できます。

※時計機能停止状態から充電したときは、十分に充電されると針が現在時刻の位置まで移動します。

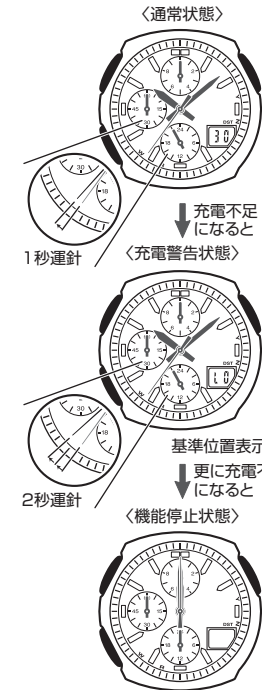
※通常状態になるまで十分に光を当ててから、ご使用ください。

●充電時のご注意

以下のような高温下での充電はお避けください。

- 炎天下に駐車中の車のダッシュボード
- 白熱ランプなどの発熱体に極端に近い所
- 直射日光が長く当たって、高温になる所

充電の際、光源の条件によっては時計本体が極端に高温になることがありますので、やけどなどをしないようご注意ください。



液晶表示に「LO」と表示します。

<注意>

以下の機能は使用できません。

- 電波受信
- アラームの報音
- ライト点灯

秒針が12時位置で停止し、時計、時針（24時間制）、分針は午前12時に運針を停止します。液晶表示は消えます。

●充電の目安

● 1日、安定した状態で時計を使用するために必要な充電時間

※1日当たり電波受信を6分間、アラームを10秒間行なった場合。

環境（照度）	充電時間	
	運針開始まで	フル充電まで
晴れた日の屋外など（50,000ルクス）	約2時間	約27時間
晴れた日の窓際など（10,000ルクス）	約5時間	約133時間
晴れた日の窓際など（10,000ルクス）	約30分	---
曇り日の窓際など（5,000ルクス）	約48分	---
蛍光灯下の室内など（500ルクス）	約8時間	---

※こまめに充電を行えば、安定した状態でご利用いただけます。

●各レベルに回復するための充電時間

環境（照度）	充電時間	
	運針開始まで	フル充電まで
晴れた日の屋外など（50,000ルクス）	約2時間	約27時間
晴れた日の窓際など（10,000ルクス）	約5時間	約133時間
曇り日の窓際など（5,000ルクス）	約9時間	---
蛍光灯下の室内など（500ルクス）	約109時間	---

※この充電時間は目安のため、実際の環境下においては充電時間が異なる場合があります。

ライト点灯について

本機にはライトがついています。また、暗いときに時計を傾けるとライトが点灯するオートライト機能もあります。

本機を振ると「カラカラ」と音がすることがあります。これはオートライト機能のためのスイッチ（金属球）が内部で動くための音で、故障ではありません。

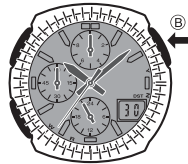
■ ボタンを押して点灯させる

～手動点灯～

時刻モードの「セット中（表示点滅）以外」のとき

⑥ ボタンを押します

→ ⑥ ボタンを押すと約1.5秒間ライトが点灯します。



※オートライトOFFのときも⑥ボタンを押すと点灯します。

■ 時計を傾けて点灯させる

～オートライト機能～

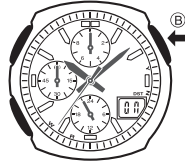
オートライト機能は、ボタンを押さなくても、暗いときに時計を傾げるだけで約1.5秒間ライトが点灯する機能です。

※明るいときは、自動点灯しません。

時刻モードの「セット中（表示点滅）以外」のとき

⑥ ボタンを約5秒間押し続けます

→ オートライトONになります（液晶表示に約1.5秒間「On」を表示します）。



※オートライトONのとき、時刻モードの「セット中（表示点滅）以外」で⑥ボタンを約5秒間押し続けると、オートライトOFFに戻ります（液晶表示に約1.5秒間「OF」を表示します）。

● ライトを点灯させる



※オートライト機能を使用するときは、時計を「手首の外側」にくるようにつけてください。

※文字板の左右（3時～9時方向）の角度を±15°以内にしてください。15°以上傾いていると点灯しにくくなります。



＜ご注意＞

- 直射日光下ではライトの点灯が確認しづらくなります。
- ライトの点灯中にボタンを押したり、自動受信が開始されたり、アラームなどが鳴り出すと点灯を中断します。

＜オートライトご使用時の注意＞

- オートライトを頻繁に使用すると電池の持続時間が短くなりますのでご注意ください。
- 時計が服の袖に隠れるようにつくと、明るいときでもオートライトが点灯することがあります。
- 時計を傾けたとき、ライトの点灯が一瞬遅れることがあります。異常ではありません。
- ライトの点灯後、時計を傾けたままにしても、点灯時間は約1.5秒間のみとなります。
- 時計を「手首の内側」につけていたり、腕を振ったり、腕を上にあげたりしてもライトが点灯することがあります。オートライトを使用しないときは必ずOFFにしておいてください。
- ※時計を「手首の内側」につけるときはできるだけオートライトをOFFにしてご使用ください。
- 静電気や磁気などでオートライトが動作しにくくなり、点灯しないことがあります。このときはもう一度水平状態から傾けなおしてみてください。なお、それでも点灯しにくいときは、腕を下からふりあげてみると点灯しやすくなります。

アラームの使い方

「操作のしくみと表示の見方」にしたがい③ボタンを押し、アラームモードに切り替えます。

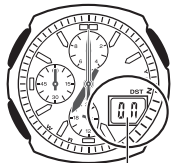
アラームモードでは時分を設定でき、設定した時刻になると10秒間電子音が鳴ります。

※アラームは時刻モードの時刻に合わせて鳴ります。

※アラームモードで2～3分間何も操作を行なわないと、自動的に時刻モードに戻ります。

※アラーム時刻を表示するために針が動いている間は、ボタンを押しても機能が動きません。

＜アラームモード＞



アラームの現在の設定を表示します

■ アラーム時刻のセット

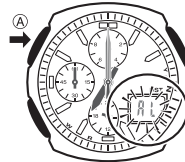
1. セット状態にする

アラームモードのとき

① ボタンを約2秒間押し続けます

→ アラームが自動的にONになり、液晶表示に「AL」を点滅表示します。

※セット状態で2～3分間何も操作を行なわないと、自動的にセット状態が解除されます。なお、セット状態が解除されるまでに行なった変更は保持されます。



2. セットする

② ボタンを押します

→ ② ボタンを押すごとに1分ずつ進みます。

※ ② ボタンを押し続けるとボタンを離しても針が連続して動き続ける早送り状態になります。早送り状態を止めるにはいずれかのボタンを押します。

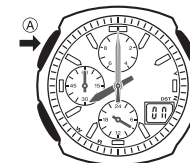
※ セットする時刻の午前と午後を間違えないように、ご注意ください。時針（24時間制）の位置をご確認ください。



時針（24時間制）

3. セットを終了する

③ ボタンを押します

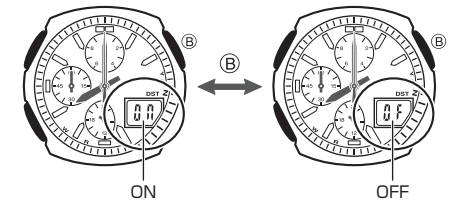


■ アラームのON / OFF

アラームモードのとき

④ ボタンを押します

→ ④ ボタンを押すごとに、ONとOFFが切り替わります。



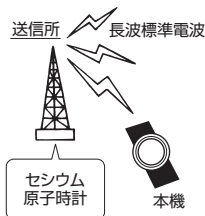
■ 鳴っている電子音を止めるには

いずれかのボタンを押すと音が止まります。

電波時計について

電波時計とは

正確な時刻情報をのせた長波標準電波を受信することにより、正しい時刻を表示する時計です。



電波時計は正確な標準時を受信していますが、時計内部の時刻演算処理等により、時刻表示に1秒未満のズレが生じます。

標準電波

- 日本の標準電波(JJY)は独立行政法人情報通信研究機構(NICT)が運用しており、福島県田村郡の「おおたかどや山標準電波送信所(40kHz)」および佐賀県と福岡県の境にある「はがね山標準電波送信所(60kHz)」から送信されています。
 - アメリカの標準電波(WWVB)はNational Institute of Standards and Technology(NIST)が運用しており、コロラド州にあるフォートコリンズ送信所から送信されています。
- ※標準電波や送信所に関する情報は、変更になる場合があります。

日本の正確な時刻情報をのせた標準電波は独立行政法人情報通信研究機構(NICT)日本標準時グループが運用しております。
この標準電波はほぼ24時間継続して送信されていますが、保守作業や雷対策等で一時送信が中断されることがあります。
詳しい情報は独立行政法人情報通信研究機構(NICT)日本標準時グループのホームページをご覧ください。

<http://jjy.nict.go.jp>

※ホームページのアドレスは変更になる場合があります。

電波の受信範囲の目安

本機は、ホームタイムゾーンを下記のように設定すると、そのゾーンに対応した標準電波を受信します。

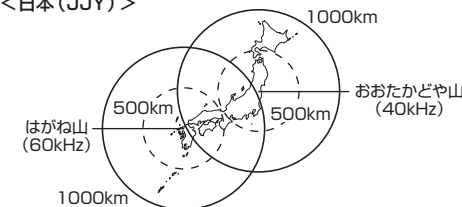
* ホームタイムゾーンの設定については「ホームタイムデータ(時刻・カレンダーなど)の合わせ方」参照。タイムゾーンについては「タイムゾーン一覧」参照。

ホームタイムゾーン (受信機能対応タイムゾーン)	受信電波
+8.0/+9.0	日本の標準電波(JJY)
-5.0/-6.0/-7.0/ -8.0/-9.0/-10.0	アメリカの標準電波(WWVB)

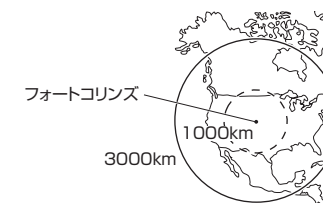
- 受信環境により、図の範囲内でも電波を受信できない場合があります。内側の円の範囲を越えると電波が弱くなりますので、受信環境の影響はより大きくなります。
※受信に影響を与える環境・・・地形、建物、天気、季節、時間帯(昼、夜)、各種ノイズ

送信所の位置

<日本(JJY)>



<アメリカ(WWVB)>



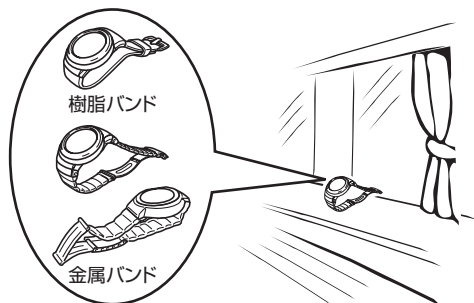
受信時間について

受信時間はおよそ2〜7分です。

※ただし、周波数を変えて再受信するため、最大14分かかる場合があります。

電波受信を行なうときの場所について

本機を腕からはずし、金属をさけて下図のように時計上部(12時位置のアンテナ)を外に向けて窓際に置いてください。

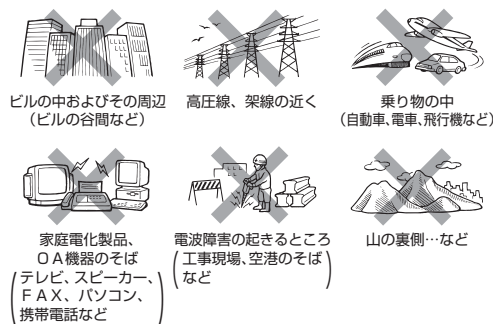


- 時計本体を横向きに置くと受信しにくくなります。
- 受信中、時計を動かさないようにしてください。

●ご注意

電波は、以下のような場所では受信しにくくなりますので、このような場所を避けて受信を行なってください。

※電波受信については、ラジオやテレビと同じようにお考えください。



受信がうまくいかないときは、上記のような場所から離れ、受信状況の良いところで再度受信してみてください。

受信方法について

受信方法には、以下の2種類があります。

- 自動受信：1日最大6回
- 手動受信：必要ときに、ボタンを押して受信を行います

自動受信

●自動受信を行なうときは、以下の操作を行なってください。

- 時刻モードのホームタイムゾーンに、現在地で受信可能な電波に対応したタイムゾーンを設定する(「電波の受信範囲の目安」, 「ホームタイムデータ(時刻・カレンダーなど)の合わせ方」参照)
- 「操作のしくみと表示の見方」にしたがって時刻モードまたはデュアルタイムモードにする
- 下記の表中の「自動受信開始時刻」前に、「電波受信を行なうときの場所について」にしたがって本機を置く

●時刻モードの時刻(「操作のしくみと表示の見方」参照)が下記の表中の自動受信開始時刻になると、1日最大6回、自動的に受信を行います。ただし、1日1回受信が成功すれば、それ以降、その日の自動受信は行ないません。

また、自動受信開始時刻は、設定したホームタイムゾーンやサマータイム設定によって異なります。

※サマータイムとは DST (Daylight Saving Time) とも言い、通常の時刻(スタンダードタイム)から1時間進める夏時間制度のことです。

※サマータイムを採用していない国や地域があります。

※サマータイムを採用していても、その期間は国や地域により異なります。

ホームタイムゾーン	自動受信開始時刻						
	1	2	3	4	5	6	
+8.0/+9.0/ -5.0/-6.0/ -7.0/-8.0/ -9.0/-10.0	スタンダードタイム サマータイム	午前12時	午前1時	午前2時	午前3時	午前4時	午前5時

★受信が成功すると

成功した時点で受信を終了し、修正した時刻を表示します。

★受信が失敗すると

時刻修正は行ないません。

■ 手動受信

必要なときに、ボタンを押して受信を行ないます。

●手動受信を行なうときは、以下の操作を行なってください。

- 時刻モードのホームタイムゾーンに、現在地で受信可能な電波に対応したタイムゾーンを設定する(「電波の受信範囲の目安」、「ホームタイムデータ(時刻・カレンダーなど)の合わせ方」参照)
- 「操作のしくみと表示の見方」にしたがって「時刻モード」にする
- 「電波受信を行なうときの場所について」にしたがって本機を置く

時刻モードのとき

Ⓐ ボタンを約2秒間押し続けます



→秒針が電波受信結果を表示後、「READY」(または「R」)位置に移動します。

※時針、時針(24時間制)、分針は通常通り進みます。

★受信中は

●秒針が「WORK」(または「W」)位置に移動します。

※時針、時針(24時間制)、分針は通常通り進みます。

※受信が完了するまで、時針を動かさないでください。

※受信環境によっては、受信動作が安定するまで、秒針が「READY」(または「R」)位置と「WORK」(または「W」)位置とを繰り返し移動することがあります。



WORK (またはW)

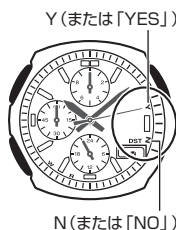
★受信完了(確認音が鳴ります)

●受信が成功すると、時刻を修正し、秒針が動き出します。時刻修正後、秒針が「Y」(または「YES」)位置に移動します。

※約5秒後に時刻モードに戻ります。

●受信が失敗すると、秒針が「N」(または「NO」)位置に移動し、受信操作前の時刻に合わせて秒針が動き出します。

※約5秒後に時刻モードに戻ります。



Y (または「YES」)



N (または「NO」)

★受信を中止するときは

いずれかのボタンを押します

■ 受信結果の確認

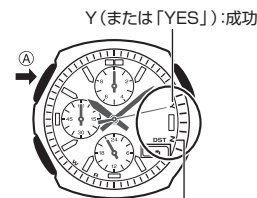
時刻モードのとき

Ⓐ ボタンを押します

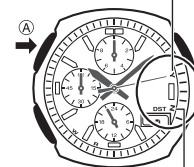
→受信確認モードになり、受信結果を表示します。受信が成功しているときは秒針が「Y」(または「YES」)(成功)を指し、受信が失敗しているときは「N」(または「NO」)(失敗)を指します。

※時刻モードに戻すには、Ⓐ ボタンを1回押します。

※約5秒間何も操作を行なわないと、自動的に時刻モードに戻ります。



Y (または「YES」):成功



N (または「NO」):失敗

受信結果は受信ごとにリセットされます。

■ 受信に関するご注意

- ストップウォッチモード、アラームモード、ハンドセットモードでは、自動受信は行なわれません。
- 自動受信中にボタン操作を行なうと、確認音が鳴り、受信を中断します。
- 受信は送信されている電波の届く範囲内で行なってください。ただし、電波の届く範囲内でも、地形や建物の影響を受けたり、季節や時間帯(昼・夜)などによってうまく受信できないことがあります。
- 電波障害により、誤った信号を受信することがあります。そのときは、再度受信を行なってください。
- 本機は日本、アメリカで送信されている電波に合わせて設定されていますので、電波が届かない地域では通常の時計としてご使用ください。
- 電波受信を行なわないときは、平均月差±20秒以内の精度範囲で動きます。
- 極度の静電気により、誤った時刻を表示することがあります。
- 受信中にアラームが鳴ると、受信を中断します。
- 本機のカレンダー機能は2099年までです。2100年以降は受信してもエラーとなります。

■ こんなときには

1. 電波が受信できません。

- 電波受信環境が悪い場所にいませんか。電波受信できる地域であっても電波が遮断されたり、発生するノイズにより受信しにくくなります。受信はこのような場所を避けて行ってください。(「ご注意」参照)
- 電波が受信できない地域にいませんか。電波受信ができる地域は、「電波の受信範囲の目安」をご覧ください。
- ホームタイムゾーンが正しく設定されていますか。「ホームタイムデータ(時刻・カレンダーなど)の合わせ方」をご覧ください。ホームタイムゾーンを正しく設定してください。
- 電波の送信が中断していませんか。電波時計が利用している標準電波は、保守作業や雷対策等で一時的に送信が中断されることがあります。

2. 電波を受信したのに、時報と時計の表示が若干ずれています。

●電波時計は標準電波を受信して時刻修正を行ないませんが、時計内部の演算処理等により若干(1秒未満)のずれが発生します。

3. 電波を受信したのに、時刻がくるっていません。

●ホームタイムゾーンが正しく設定されていますか。「ホームタイムデータ(時刻・カレンダーなど)の合わせ方」をご覧ください。ホームタイムゾーンを正しく設定してください。

★電波受信ができないときや受信しても時刻が合わないときなどは、設定を確認してください。

※本機は工場出荷時および電池交換後には、以下の内容でセットされています。

ホームタイムゾーン	+9.0	——
サマータイム	AT (AUTO)	電波受信による自動切替え

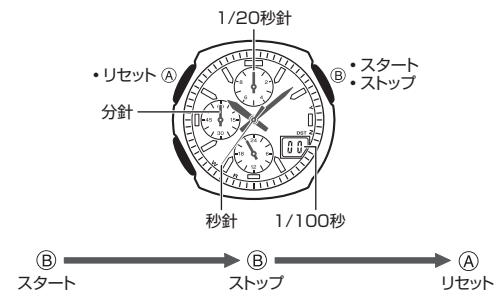
ストップウォッチの使い方

「操作のしくみと表示の見方」にしたがいⒸボタンを押し、ストップウォッチモードに切り替えます。

ストップウォッチは1/100秒単位で59分59秒99(60分計)まで計測できます。計測範囲を超えると、自動的に0に戻って計測し続けます。

■ 計測のしかた

ストップウォッチモードで行ないます。



※1/20秒針は、計測スタートまたは再スタート後の1分間のみ動きます。

ストップ後は、計測値を表示します。

※計測中にⒶボタンを押しても、リセットされません。

デュアルタイムの使い方

「操作のしくみと表示の見方」にしたがい **ⓐ** ボタンを押して、デュアルタイムモードに切り替えます。

デュアルタイムモードでは、29タイムゾーンの時刻を確認することができます。



■ご注意

選択したタイムゾーンの時刻が合っていないときは、ホームタイムデータの設定を確認し、違っているときは正しく直してください。

※ホームタイムデータの設定は「ホームタイムデータ（時刻・カレンダーなど）の合わせ方」をご覧ください。

■タイムゾーンのサーチ

デュアルタイムモードのとき

ⓑ ボタンを押します

⇒ **ⓑ** ボタンを押すごとにタイムゾーンが1つずつ進みます。

※ **ⓑ** ボタンを押してから約1秒後に選択したタイムゾーンの時刻にかわります。なお、時刻を表示する（針が止まる）までに時間がかかる場合があります。

※選んだタイムゾーンの時刻を表示するために針が動いている間は、ボタンを押しても機能が働きません。



■サマータイムについて

サマータイムとはDST (Daylight Saving Time) とも言い、通常の時刻（スタンダードタイム）から1時間進める夏時間制度のことです。

- サマータイムを採用していない国や地域があります。
- サマータイムを採用していても、その期間は国や地域により異なります。

- ON
サマータイムはONに設定されていて、スタンダードタイムより1時間進んでいます（夏時間）。
- OFF
サマータイムはOFFに設定されています（スタンダードタイム）。

●サマータイムのON / OFF 確認

デュアルタイムモードのとき



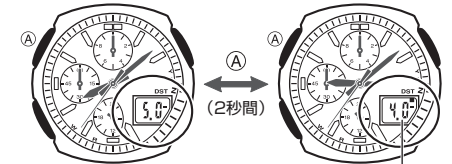
●サマータイムのON / OFF 設定

デュアルタイムモードのとき

ⓑ ボタンを押して、設定したいタイムゾーンを選びます

Ⓐ ボタンを約2秒間押し続けます

⇒ **Ⓐ** ボタンを約2秒間押し続けることにサマータイムのON / OFFが切り替わり、設定した時刻を表示します。
※サマータイムは各タイムゾーンごとに設定することができます。ただし、「G (GMT)」にはサマータイムの設定はできません。



「GMTとの差」も、1時間変更になります。

■タイムゾーン一覧

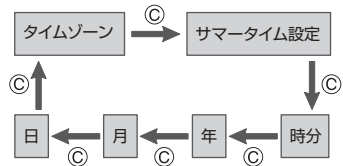
タイムゾーン	代表都市名	タイムゾーン	代表都市名
+12.0	ウェリントン、クライストチャーチ	+1.0	パリ、ローマ、マドリード、フランクフルト
+11.0	ヌーメア、ポートビラ	+0.0	ロンドン、ダブリン
+10.0	シドニー、グアム	<グリニッジ標準時>	アゾレス諸島
+9.5	アデレード	-1.0	
+9.0	東京、ソウル、平壤	-2.0	
+8.0	香港、シンガポール、クアラルンプール、北京、台北、マニラ	-3.0	リオデジャネイロ、サンパウロ、ブエノスアイレス
+7.0	バンコク、ジャカルタ、ハノイ	-4.0	カラカス、サンティアゴ
+6.5	ヤンゴン	-5.0	ニューヨーク、モントリオール、マイアミ、ボストン
+6.0	ダッカ	-6.0	シカゴ、ヒューストン、メキシコシティ
+5.5	デリー	-7.0	デンバー、エルパソ、エドモントン
+5.0	カラチ	-8.0	ロサンゼルス、サンフランシスコ、ラスベガス
+4.5	カプール	-9.0	アンカレッジ、ノーム
+4.0	ドバイ、アブダビ	-10.0	ホノルル、パペーテ
+3.5	テヘラン	-11.0	パゴパゴ
+3.0	ジェッタ、クウェート、モスクワ		
+2.0	アテネ、カイロ、エルサレム、ヘルシンキ、ベイルート		

※この表は2007年6月現在作成のものです。

※この表のタイムゾーンは協定世界時(UTC)を基準としたものです。

ホームタイムデータ(時刻・カレンダーなど)の合わせ方

ホームタイムデータ（お使いになる地域や都市のタイムゾーン、時刻、カレンダーなど）を設定します。電波受信ができない場所で本機をお使いになる場合も、以下の操作で時刻や日付を合わせてください。
 ※ホームタイムデータの設定や修正は、時刻モードで行ないます。
 ※修正できる項目は、**C** ボタンを押すことに、以下の順で切り替わります。



■「ホームタイムデータ」を変更する

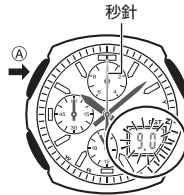
「操作のしくみと表示の見方」にしたがい**C** ボタンを押し、時刻モードに切り替えます。

1. セット状態にする

時刻モードのとき

A ボタンを約5秒間押し続けます

→秒針が12時位置に移動し、液晶表示に「タイムゾーン」を点滅表示します。

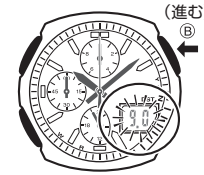


※ 秒針は電波受信結果を表示後、「READY」（または「R」）位置に移動し、さらに押し続けると12時位置に移動します。
 ※ セット状態で2～3分間何も操作を行なわないと、自動的にセット状態が解除されます。なお、セット状態が解除されるまでに行なった変更は保持されます。

2. ホームタイムゾーンを選ぶ

B ボタンを押します

→**B** ボタンを押すごとにタイムゾーンが1つずつ進みます（「タイムゾーン一覧」参照）。



〈タイムゾーンが「マイナスの値」のとき〉

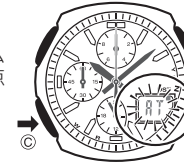
マイナスを表わします。この表示例は「-5.0」を表わしています。



3. サマータイムを設定する状態にする

C ボタンを押します

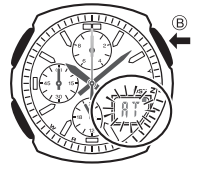
→液晶表示に「サマータイムの設定(AT/OFF/On)」を点滅表示します。



4. サマータイムを設定する

B ボタンを押します

→**B** ボタンを押すごとにサマータイムの設定が切り替わります。

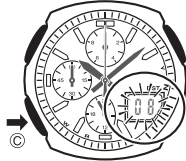


- **AT(AUTO)**
 受信した電波の情報にしたがって、自動的にサマータイムのON/OFFが切り替わります。工場出荷時に+8.0/+9.0/-5.0/-6.0/-7.0/-8.0/-9.0/-10.0に設定されています。
 ※電波受信が行なえるタイムゾーン(+8.0/+9.0/-5.0/-6.0/-7.0/-8.0/-9.0/-10.0)以外のタイムゾーンには設定できません。
- **On**
 サマータイムはONになり、スタンダードタイムより1時間進みます（夏時間）。
- **OF (OFF)**
 サマータイムはOFFになります（スタンダードタイム）。

5. 「時刻（時分）」を修正する状態にする

C ボタンを押します

→液晶表示に「分」を点滅表示します。



6. 時分を修正する

B ボタンを押します

→**B** ボタンを押すごとに1分ずつ進みます。
 ※ **B** ボタンを押し続けるとボタンを離しても針が連続して動き続ける早送り状態になります。早送り状態を止めるにはいずれかのボタンを押します。
 ※ 時を合わせるときは、時針（24時間制）にもご注意ください。

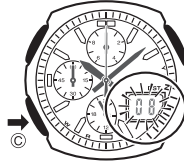


時針（24時間制）

7. 「年修正」にする

C ボタンを押します

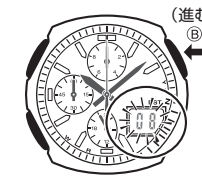
→液晶表示に「年（西暦の下二桁）」を点滅表示します。



8. 年を修正する

B ボタンを押します

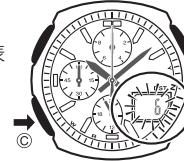
→**B** ボタンを押すごとに、1つずつ進みます。
 ※ **B** ボタンを押し続けると早送りができます。



9. 「月修正」にする

C ボタンを押します

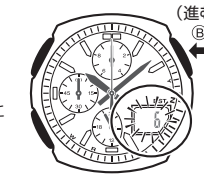
→液晶表示に「月」を点滅表示します。



10. 月を修正する

B ボタンを押します

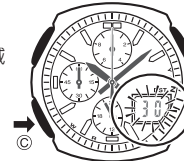
→**B** ボタンを押すごとに、1つずつ進みます。
 ※ **B** ボタンを押し続けると早送りができます。



11. 「日付修正」にする

C ボタンを押します

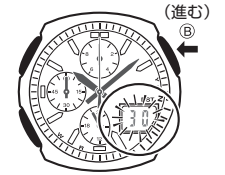
→液晶表示に「日付」を点滅表示します。



12. 日付を修正する

B ボタンを押します

→**B** ボタンを押すごとに1日ずつ進みます。
 ※ **B** ボタンを押し続けると早送りができます。



13. セットを終了する

A ボタンを押します

→セット状態が解除され、秒針が0秒から動き始めます。
 ※ 時報に合わせて押し続けると、正確に合わせてくれます。



日付は電波受信ができる場合はうるう年および小の月を自動修正します。電波受信ができない場合など、ご自身で時刻・日付を合わせる場合は、うるう年や小の月の月末にこの方法で日付を修正してください。

針の基準位置合わせ

電波受信を行っても時刻が合っていないときは、以下の操作を行なって針位置を確認し、合っていないときは、針位置を合わせてください。
なお、時刻が合っていないとき以外はこの操作を行なわないでください。

「操作のしくみと表示の見方」にしたがい **Ⓒ** ボタンを押し、ハンドセットモードに切り替えます。

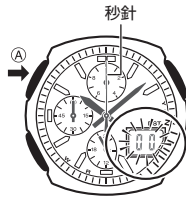
1. 基準位置確認状態にする

ハンドセットモードのとき

Ⓐ ボタンを約2秒間押し続けます

→ 秒針が基準位置に移動し、液晶表示に「00」を点滅表示します。

〈基準位置〉
秒針：12時位置



★秒針が基準位置にある場合は、手順 3. に進みます。

※針の基準位置確認状態で2～3分間何も操作を行なわないと、自動的にセット状態が解除されます。

なお、セット状態が解除されるまでに行なった変更は保持されます。

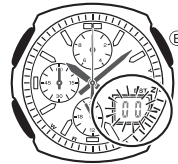
秒針がずれている場合

2. 基準位置を合わせる

Ⓑ ボタンを押しします

→ 針が時計回りで回転しますので、基準位置に合わせます。

※ **Ⓑ** ボタンを押し続けるとボタンを離しても針が連続して動き続ける早送り状態になります。早送り状態を止めるには、いずれかのボタンを押しします。

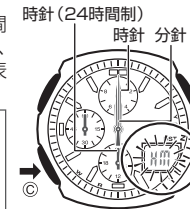


3. 時・分針と時計（24時間制）を確認する

Ⓒ ボタンを押しします

→ 時・分針と時計（24時間制）が基準位置に移動し、液晶表示に「Hm」を点滅表示します。

〈基準位置〉
時計：12時位置
分針：12時位置
時計（24時間制）：24時位置



★時・分針と時計（24時間制）が基準位置にある場合は、手順 5. に進みます。

時針と分針がずれている場合

4. 基準位置を合わせる

Ⓑ ボタンを押しします

→ 針が時計回りで回転しますので、基準位置に合わせます。

※ **Ⓑ** ボタンを押し続けるとボタンを離しても針が連続して動き続ける早送り状態になります。

早送り状態を止めるには、いずれかのボタンを押しします。

※ 時計（24時間制）は時・分針に連動して動きます。

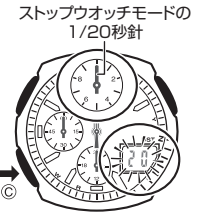


5. ストップウォッチモードの1/20秒針を確認する

Ⓒ ボタンを押しします

→ ストップウォッチモードの1/20秒針が基準位置に移動し、液晶表示に「20」を点滅表示します。

〈基準位置〉
ストップウォッチモードの1/20秒針：0位置



★ストップウォッチモードの1/20秒針が基準位置にある場合は、手順 7. に進みます。

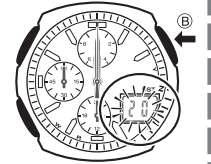
ストップウォッチモードの1/20秒針がずれている場合

6. 基準位置を合わせる

Ⓑ ボタンを押しします

→ 針が時計回りで回転しますので、基準位置に合わせます。

※ **Ⓑ** ボタンを押し続けるとボタンを離しても針が連続して動き続ける早送り状態になります。早送り状態を止めるには、いずれかのボタンを押しします。

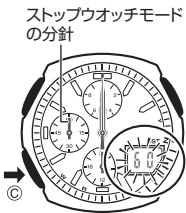


7. ストップウォッチモードの分針を確認する

Ⓒ ボタンを押しします

→ ストップウォッチモードの分針が基準位置に移動し、液晶表示に「60」を点滅表示します。

〈基準位置〉
ストップウォッチモードの分針：60位置

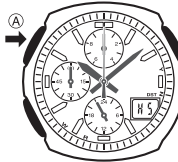


9. 基準位置合わせを終わる

Ⓐ ボタンを押しします

→ セット状態が解除されます。

※ **Ⓒ** ボタンを押し、使いたいモードに切り替えてください。



針の基準位置合わせが終了したら、電波を受信しやすい場所で「手動受信」を行ない、時刻情報を受信してください。

※手動受信の方法については、「手動受信」をご覧ください。

★ストップウォッチモードの分針が基準位置にある場合、手順 9. に進みます。

ストップウォッチモードの分針がずれている場合

8. 基準位置を合わせる

Ⓑ ボタンを押しします

→ 針が時計回りで回転しますので、基準位置に合わせます。

※ **Ⓑ** ボタンを押し続けるとボタンを離しても針が連続して動き続ける早送り状態になります。早送り状態を止めるには、いずれかのボタンを押しします。

